

協会ニュース

平成 30 年 11 月 6 日
中国地区品質経営協会
広島市西区横川町 3 丁目 5 番 9 号 (世良ビル 404 号)
TEL (082) 532-6844 FAX (082) 532-6845
e-mail qmac@a1.mbn.or.jp URL http://qmac.jp/

平成 30 年度 第 2 回シンポジウム「モノづくりマネジメント 技術革新」

開催日時：平成 30 年 10 月 31 日 (水) 13:20 ~ 17:00

場 所：広島商工会議所ビル 1 階 101 会議室

参加者：21 企業・団体 119 名

我々を取り巻く昨今の状況下で企業が持続的に発展するためには、その体質強化の活動が常に行われ、かつ そのモノづくり活動を継続的に進化し続ける必要があります。そのような厳しい状況下において長期にわたって歴史ある事業活動を展開してきた広島県の地場企業 2 社にお越しいただき、オンリーワンの技術にこだわって変革し続けられてきた取り組み事例をご講演いただきました。

講演第 1 部では、『テーマ名：プラスチックフィルム向け機能性材料塗工装置 - 「MCD」塗工装置 - 』と題して、富士機械工業株式会社 磯崎 (いそざき) 様に第 7 回ものづくり日本大賞 特別賞を受賞されました「MCD (マイクロチャンバードクター)」塗工装置の開発について、MCD 商品化までの取り組みを、導入事例を交えてご講演いただきました。

もっと薄く・もっと強く・もっと高速を信念に技術を突き詰められ、食品用フィルムのグラビア印刷において、革新的な製品となるだけでなく、リチウムイオン電池の構成部材生産への転用・発展された素晴らしい事例での発表をして頂き、マザーマシン製作会社として、ユーザー様のニーズを的確に捉えて、開発、商品化に向けて飽くなき挑戦をされていることが伝わってくる講演でした。

講演第 2 部では、昨年創立百周年を迎えられた中国塗料株式会社 増田 (ますだ) 様に、一世紀に渡り、生物付着防止のために、進化しつつ塗装されてきた船底防汚塗料について、ご講演いただきました。船体抵抗の低減の必要性とそれを実現させるメカニズムについて理解が深まりました。又、計測すること、「評価パラメータ」と言われていましたが、評価基準の大切さを改めて認識し、自動車業界の評価手法と相通ずるものを感じました。また、世界環境基準の変化に対して、その都度、乗り越えられて開発されてきた歴史の重みを感じる講演でした。

お二人の講演後、広島大学 大学院工学研究科 教授 高橋 勝彦先生をコーディネーターとして迎え、パネルディスカッションが行われました。会場から寄せられた多くの質問に講演者が回答することで、開発での苦労話やアイデアがどこから生まれたかなど、興味深い話も伺うことができ、その結果、講演内容の深掘りが行われ、参加者の理解もより深まりました。

アンケート結果では、「印刷のメカニズムが理解出来た。」「印刷製品の改良に向けた熱意が伝わった。」「船底塗料の環境への配慮や燃費改善 (CO2削減) に向けた取り組みが興味深かった。」や、パネルディスカッションで「失敗を恐れずチャレンジする精神と“それを支える企業風土”が、強く印象に残った。」などの感想が寄せられ、非常に有意義なシンポジウムとなりました。



富士機械工業(株)
磯崎 徹 氏



中国塗料(株)
増田 宏 氏



パネルディスカッションの様子
(左からコーディネーターの高橋氏、増田氏、磯崎氏)